財団法人 中東調査会
The Middle East Research Institute of Japan
المعهد الياباني لبحوث الشرق الأوسط

# かわら版

2007年11月14日
No.273

―湾岸・アラビア半島地域ニュース―

## サウジアラビア：9月のインフレ率　（11月8日付「アラブ・ニュース」紙）

1. 統計局が11月7日に発表したところによると、9月のインフレ率は、8月の4.42%から更に上昇し、家賃と食料の高騰により 4.89%まで押し上げられ、10 年ぶりの高いインフレ率となっている。

2. 中央銀行はサウジ・リアル（SR）のドルペッグ制によってもたらされるインフレとの戦いを余儀なくされており、米国連銀が金利引下げを行った時にそれに追随せざるを得なかった。9月18日のドル金利引下げに追随しなかった時、SRは21年ぶりの高値を記録した。10月31日のドル金利引下げには追随したが、銀行はインフレの加速から生じる調達金利の上昇を防ぐ為に、増加した預金を過去 27 年間で初めて手元に置いておかざるを得なかった。

3. サウジ・ブリティッシュ銀行（SABB）のチーフ・エコノミストは、ドル安の影響で欧州産の食料価格が上昇していると述べた。食料価格指数は、7月に5.9%、8月に6.6%、9月には7.2%まで上昇した。同エコノミストは、ラマダン期間なので9月にインフレ率が上がることは予想していたが、世界的な食料価格の高騰がこの上昇を更に大きなものにしていると述べた。

4. 国内要因もインフレ圧力を高めることとなっており、2002年以来、約5倍に高騰した原油価格により促進された経済成長は、不動産価格を押し上げてきている。賃料指数は、昨年9月の101.4に対し、今年9月には112.6に上昇し、8月中に12.1%上昇した。

注：最近のサウジのインフレ原因について、ドルペッグ制を背景に輸入品価格が上昇していることに求める論調が多いが、一方で、今回のように、原油価格高騰に伴う世界的な食料価格の上昇、新興国の経済成長、サウジの歳入増加に伴う公共支出の増大等に原因を求め、為替政策の変更はインフレ抑制に大きな効果がないとする論調も存在する。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。
ご質問・お問合せ先　財団法人中東調査会　TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799